

分野別方針11 国際化

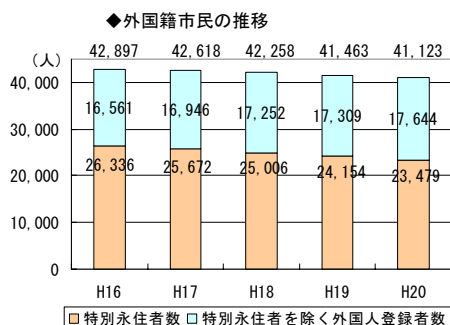
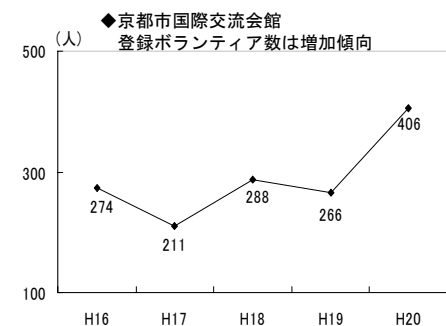
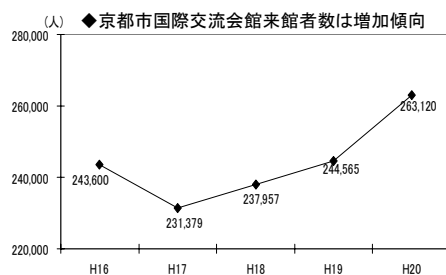
～住む人にも、訪れる人にも魅力的な国際都市を目指す～

基本方針

1200年を超える歴史の中で京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市を目指す。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。

現状・課題

- 情報通信技術や交通手段の進展等により、経済、文化、教育、観光等あらゆる分野でグローバル化が進み、都市間の競争が厳しさを増すと同時に、国際交流の機運はますます高まっている。
- 観光客や国際会議参加者、留学生、研究者など外国からの訪問者を受け入れる、多言語による案内や多様な宿泊施設など、受入環境の一層の整備が求められる。
- 国際交流に関する市民向けの情報提供や学校における国際教育を更に充実させ、国際交流活動への市民参加の促進と、ホームステイの受入れや日本文化の紹介をはじめとする国際交流ボランティアを増加する必要がある。
- 在日韓国・朝鮮の方や留学生など、多くの国籍の外国籍市民が暮らしており、言葉や文化の相違に起因した課題の解決や、地域における交流の機会が求められている。



政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 京都は、1200年の歴史の中で、国内外から様々な文化を取り入れ、独自の豊かな文化を築きあげてきた。この国際都市としての蓄積を継承し、多様な文化を積極的に受け入れ、その魅力を向上させるとともに、積極的な情報発信を行い、受入環境が充実して、海外からの観光客や留学生など、世界中の人々をひきよせるまちとなっている。
- 世界平和や人権、環境、歴史文化資産の継承等に関する、国と国との関係を越えた都市間交流により、国際社会に大きく貢献するまちとなっている。
- 市民の外国の文化への関心や理解度が高まるとともに、外国籍市民や日本国籍を取得した外国にルーツを持つ市民が、存分に知識や能力を生かして地域社会で活躍することにより、すべての市民が安心して、より豊かな生活を送れる、多文化が息づくまちとなっている。
- 国際交流拠点である京都市国際交流会館の活用や、行政のサポートにより、姉妹都市をはじめ世界各国から人々が集い交流する機会を拡充するとともに国際感覚を持った人材を育成することで、ボランティア、NPO、学校、企業、文化・伝統行事・まちづくりを支える団体等が活躍し、市民、民間レベルでの国際交流が定着したまちとなっている。

<政策指標>

指標	現況値	目標値
1 京都市国際交流会館登録ボランティア数	406人 (H20)	800人
2 世界歴史都市連盟加盟都市数	86都市 (H21)	120都市

市民と行政の役割分担と共汗

<共汗の方向性>

